

TWO STABLE FORMED ELECTROMAGNETIC VALVE

Publication number: JP52105326 (A)

Publication date: 1977-09-03

Inventor(s): NAKAJIMA HIROYUKI; OOTA MINORU

Applicant(s): KONAN ELECTRIC CO

Classification:

- **international:** F16K31/06; F16K31/08; F16K31/06; F16K31/08; (IPC1-7): F16K31/08

- **European:**

Application number: JP19760021381 19760228

Priority number(s): JP19760021381 19760228

Abstract not available for JP 52105326 (A)

Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

一
舉

次に、(1)は本体、(2)は枕木口、(3)は手廻、(4)は孔、(5)は弁室であり、初は導孔、(6)は枕木口、(7)は可動片、(8)は押、(9)は平押ね、(10)は止め金具、(11)はコイル室、(12)はコイル、(13)は蓋石本体、(14)はコイル端、(15)は外郭端、(16)は外郭端、(17)は外郭、(18)は導孔、(19)は外郭端ね、(20)はコイル端端、(21)は孔、(22)は外郭端ね、(23)はコイル端端、(24)は孔、(25)は外郭端ね、(26)はコイル端端であり、(27)は磁端である。

このような構成、様様、材料により製作された。流体口(6)は導電路に通じる。
電磁石本体(1)は可動片(6)と可動片(8)を備れる磁氣は、その
後反転して電磁石本体(1)は前記コイル(5)を防護し
たときは逆方向に磁化されるが、すなてて電磁石
本体(1)の下端面と可動片(6)の上端面と共に空気空間
があるので、吸引力は強くふたたび可動片(6)を上方
方に吸引引ることができる。
このより力を作用するためには、前記したよう
に磁鉄となる電磁石本体(1)と可動片(6)の材料の強
度磁化の大きさが防護されたときの磁気の強さと
から測定値から算出する方法で、
このようにして可動片(6)またはそのいずれかが強制曲線の大き
さを有する材料を適用しているので可動片(6)はこの強制曲
線の強度によつて上方に留着しますとさり、ばねの力
が引きをされない。

ベロイアル時によつて発生する磁化力の強さは、したがつて可動片が下側に運ばれたときには、ロイアル時の状態によつてふたび上方に吸引されないよりに磁化の程度およびねじれの強さを定めることは容易である。

しかし一般の水永磁石材料では附着された磁化力と残留磁化力とは必ず残留磁化力の方が小さいので必ずしも上記したとおりを關係の材料でなくともねじれの強さや空気隙隙の大きさ、ロイアル時の巻数比とコイル時の巻数比などを決定する困難ははあるにしても良好に作用する二安定形電磁をつくることができるのである。

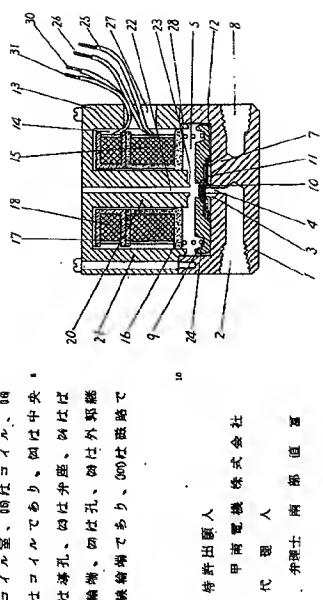
この発明で特に電磁石本体側を断面ヨ字形となつたのは、可動片(1)が電磁石本体(2)の下端に接したことと、また(2)に於ては、可動片(1)が完全に閉じ、残留磁化を長期にわたつて安定して保持するといふ効果を加え、小電力で強い吸引力を發揮することができるという特徴があるのである。その上、本体(1)と電磁石本体(2)によってかくまわれた空間内に可動片(1)が位置する。

片側を挿入し、かつ可動片側に和音を放ける構成のため各部の構造を簡略化することができる。
このより大きな磁石側を形成する電磁石は、一方にタラップ形電磁石と呼ばれており、電磁石本体はタラップ形電磁石を形而成している。
この発明によるとときは極性が高く、安価な二安定形電磁石を得ることができ。また、この発明の他の実施例として正字形の電磁石本体は上記(第1図)および第2図では一とおりで製作標準するより簡便したが、例えば電磁石本体と別個に中央駆動部とを別個につなぐことで一体化してもよく、またその覆面部材の一端を水久磁石とし、その他の部分を残留磁化の少ない材料などとすれば駆動部と

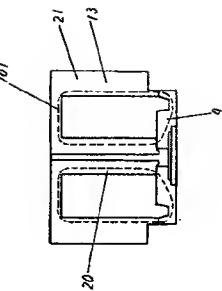
してよい。
4. 図面の簡単な説明
図面はこの発明の一実施例であり、第1図は断面図、第2図は電磁本体における磁路の説明図である。

図面の簡単な説明

図面はこの発明の一実施形態、第2図は電磁本体による



卷二



-150-